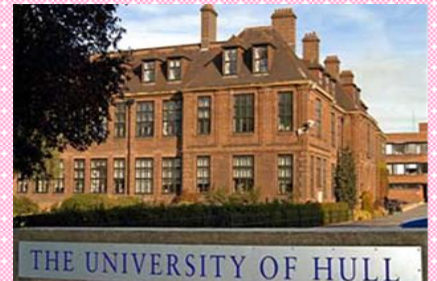




海外短期研修報告書 2013年度春季



お茶の水女子大学グローバル教育センター

目次

★ 参加者レポート: 1～46ページ

★ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア): 1～7ページ

★オタゴ大学(ニュージーランド): 8～16ページ

★ヴァッサー大学(アメリカ) : 17～32 ページ

★ハル大学(イギリス): 33～41 ページ

★モナシュ大学(オーストラリア): 42～46 ページ

★ 参考資料: 47～48 ページ



ニューサウスウェールズ大学
(オーストラリア)

My Life in Sydney

Saki Kawana

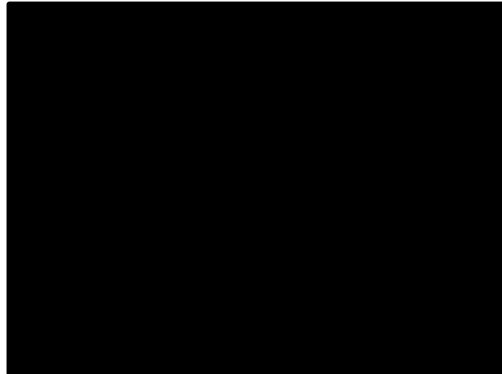
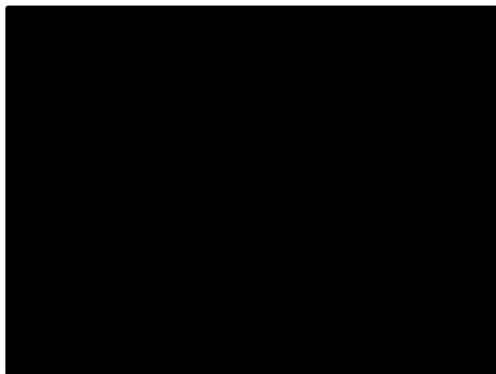
I participated in a study abroad program in Sydney, Australia in spring 2014. Throughout this experience, I learned a lot of things and enjoyed very much!!

First, my host family was very accommodating and treated me as if I were their real daughter. My host mother made time to talk with me every day and I enjoyed playing the violin with my host brother. I had a Chinese roommate, which also helped me speak English a lot and learn about Chinese culture.

For the first 4 weeks, I went to University of New South Wales. I took an IELTS class, so there were classmates of various ages and nationalities. The teacher and the classmates were very funny, so the classroom was full of laughter. During break times or speaking sessions, I learned different cultures or various ways of thinking. At UNSW, I became friends with students who loved Japan. After school or on holidays, I went to a lot of place with them and their friends. I still keep in contact with them now.

In this program, two-weeks Internship was included. I went to an elementary school to introduced Japanese culture, and I also spent an enjoyable time with them. Furthermore I helped some students who needed extra help with their difficult class. I was upset at the Australian accent and children's high pitched voice, but my students were very friendly and incredibly cute, so I looked forward to going to school every day.

Before going to Sydney, I was nervous about living in foreign country. However, I felt that the people in the world are very kind and always help me. Through this experience, I realized how small the world is and became more interested in my own country and foreign countries.



P.2 は非公開です。

My special experience

Yu Aoki

Last spring, I spent six weeks in Sydney. The program was composed of 4 weeks study in institute of language and 2 weeks volunteer work in high school. Before leaving Japan, I set up one goal besides mastering English. That was to find a lot of cultural differences in Australia.

There are many people who have different nationalities in Australia. My host family was Australian, but my mother was born in Greece. My new friends who I met there are Chinese, Korean, Saudi Arabian, Colombian and so on. While I lived with them, I found a number of different cultures. For example, there were no people who wore a mask even if they had a cold. When I wore it there, many people stared at me strangely. Not only visible differences like this, I also found characteristics of foreigners which were different from Japanese ones. In classes at school, all the students except Japanese spoke their own opinions positively. They never hesitated to ask a question. As I took a class with them, I was stimulated and got to say my opinion without being hesitant.

I wondered why there were such a differences between Japanese and others. I found a key point in high school where I did a volunteer work as an assistant. I observed a “DRAMA” class at school. Every student had to take that class, and they did debates and improvised dramas in it. That class shocked me. All the students had their own opinion and told it with confidence. They could get ideas in shape and make a drama in short time. I found that such training in childhood would make their strong features.

I also noticed that people in Australia have many hobbies and enjoy their free time. Of course, they had much free time than Japanese, but they were also good at using it. I decided to consider my way of spending my free time again.

The six weeks in Sydney was special time for me. Because I set an aim, finding cultural differences as many as possible, I could lived a full life. This wonderful experience surely has a good effect on my future life.

この研修ツアーで一番良かったと私が感じていることは、友達がたくさんでき、交流する機会にめぐまれていたことです。

前半は、UNSW ISに通っていました。私は今までにアカデミックな英語に触れる機会がほとんどなかったので、とてもためになりました。IELTS 対策のクラスにいたのですが、試験対策一本でした。writing, reading, listening, speakingに触れることができ、先生も個別に添削してくれるなどのサポートもあってよかったです。クラスでも友達ことができました。

また、NSA (Nippon Students Association) という UNSW のサークルの子たちと仲良くしていました。NSA に所属している人たちは、私が想像していた以上に日本に興味を持っているひが多かったですし、日本語も上手な人たちが多かったです。日本に興味を持っている現地の学生と交流を持つことによって、私自身が日本という国について改めて考えるきっかけとなったように思います。また、積極的にシドニーのまちを案内してくれたり、おいしいお店に連れて行ってくれたり、親切な人たちが多かったです。NSA 以外にも、シドニー大学や UTS の友達もできました。

また、他大学から来ている日本人とも友達になることができ、積極的に英語を学びたい、話したいと思っているひとばかりで、大変刺激を受けました。

後半は、インターンに行ってきました。わたしは The Athena School というサイエントロジーの学校に行きました。幼小中高一貫校で、全校生徒約 30 人という小規模な学校でした。ESL (English Second Language) の生徒に英語を教えたり、小学生に算数を教えたりしていました。休み時間や放課後には一緒にハンドボールをして生徒と仲良くなれました。遠足で美術館に行ったり、爬虫類ショーやスイミングカーニバルなどの行事に参加したり、貴重な経験ができました。本当にあつという間でしたが、生徒とは仲良くなり、今でも連絡を取り合っています。

できるだけ多くのひとと関わりたい、話したい、少しでも多くの時間ひとと会っていたい、コミュニケーションをとりたい、と思いながら参加していたこの研修でしたが、満足のいくものであったと思います。



異国の地で気づいたこと

生活科学部 人間・環境科学科

1年 高尾睦美

”多民族国家オーストラリア”ということ地理の授業で学んだことがあったとはいえ、日本にいる間は白人の国というイメージがかなり強かった。だが実際はシドニーの街・学校の周りを歩いていくとたくさんのアジア人とすれ違



うため、自分がいったいどこの国に来たのかわからなくなるようだった。一方でシティにそびえる多くの建物はどれも西洋風で、国旗があらわすようにオーストラリアの背後にはイギリスの存在があることを感じさせた。(写真:州立美術館)

この巨大な大陸でいろいろな文化・バックグラウンドを持った人が集まっているため、これといったオーストラリア人の特徴を認識することはできなかった。その一方で、日常生活を送る際さまざまなカルチャーショックがあった。スーパーでたびたび見た陳列棚にある商品の破損、バスや電車の窓にある多くの落書き、夕方5時頃に早々と店じまいをする習慣、赤信号を点滅させる信号機、オーストラリア郵便の郵便物の乱雑な取り扱い様、2車線道路脇に延々と続く路上駐車。

世界的に見ても日本人はおそらく、最高水準や最高品質を求める傾向にあるのだと思う。それが当然のことだと思っていた。しかし、日本人ほど質を求めないオーストラリア社会で生活していると、別にすべてが最高でなくても生活していくのも悪くないと思った。というのも、オーストラリアに滞在した6週間は私にとって、日本での暮らしよりもあくせくすることのないおだやかな日々だったからである。

オーストラリアのこういった現状は、いろいろな人・文化・価値観を受け入れるという体制のもとで多民族国家が成立しているのであるためであろうか。人々の考え方や価値観にもオーストラリア社会の傾向はかなり影響を与えていた。今回私は、オーストラリアでの生活も悪くないと感じたものの、日本も同じようになってほしいとは思わない。一方で、日本のような生活を無理に海外へ広めたいとは思わない。むしろ世界の国がそれぞれの特徴に合った役割を持ち、人々も自国の社会に適応した価値観を持ち続けることで、バランスは現状を維持できるのではないかと考えた。

日本には空気を読むという文化や、敬語という言葉があり、私は日本語で相手とコミュニケーションをとる際、これらを自然と意識している。一方で英語を使っている時の私は、そういった配慮が必要ないためか、意見や考え方も変わってくる。だから今後は、相手が外国人であっても日本人としての意識をもって接したいと思った、それが意味私の個性なのだから。グローバル化がすすんでも、今後最も大切なのは日本人らしさを失わないようにすることかもしれない。

感想文

生活科学部人間生活学科生活社会科学講座
3年佐藤歩実

今回の短期留学は、春休みで部活や他の用事が忙しい時期だったため、自分の中で行くべきかどうか迷いました。しかし帰ってきた今、胸を張って「行ってよかった」と言うことができます。そして数ある留学プログラムの中で、このニューサウスウェールズ大学とインターンシップの研修に参加したことが本当によかったと感じています。私はこの研修で、あまりにたくさんを経験し、刺激を受けてきたため、この感想文にはとても全てのことを書ききれません。ですから、特に大きな学びとなった二つのことを書きます。

一つ目は、オーストラリアの多様性です。シドニーに着いてまず驚いたのは、様々な人種や国籍の人たちがいることです。私は漠然と、白人社会を思い描いていたのですが、むしろそれ以外の人々のほうが多いくらい、たくさんの国の人がありました。そのせいか、オーストラリアには「外国人」という概念がないように思います。いろいろな文化や民族を受け入れる、寛容な雰囲気にあふれていました。そのため、私も街を歩いていて、自分が外国人だと意識することはほとんどありませんでした。英語を母国語としない人が多く暮らしているため、私が下手な英語で話しても、嫌な顔をせずに聞いてくれて、理解してくれました。オーストラリアに暮らす人は、とてもあたたかかったのがすごく印象的です。また、シドニーには特に中国人が多く、私も多くの中国人の知り合いができました。彼らと話す中で、日中関係の悪化がよく話題となっているけれど、あくまでもそれは政治の話であり、一部の人々の反日・反中感情なのだという事を思い知らされました。このように多様性のあるオーストラリアで生活するうちに、〇〇人はこうだ、というステレオタイプの危険性や間違いをたくさん感じました。人種や国籍以外にもオーストラリアの多様性を実感したことがあります。それは、同性愛の受け入れです。マルディグラという世界最大規模のゲイ・レズビアン祭典を見に行った時に、私は衝撃を受けました。市街地には、派手な衣装で着飾ったゲイやレズビアンの人たちが大勢いるのです。このような同性愛を受け入れ方は、日本では考えられないということ、そして、オーストラリアでも完全には受け入れられてはいないので、このような祭典があるのだろうということ、一緒に行ったお茶大の友達と話しました。とにかくオーストラリアは、少数派だろうが多数派だろうが、個性を尊重して自由に生きることができる雰囲気を持っていました。

二つ目は、教育現場の違いです。私はインターンシップで、ノースシドニーガールズ

ハイスクールの日本語クラスでTAをしました。シドニーのトップ3に入る優秀な学校だったこともあり、高校生はみんな日本語を理解することができ、私も日本語で会話をして不自由しなかったほどです。しかしこれは生徒が優秀だったことだけが理由ではないと、授業を見ていて感じました。まず気づいたのは、日本との授業スタイルの違いです。席は56人のグループに分かれていて、授業は主にテキストを使いつつも生徒が話すことがメインでした。一つ新しい表現が出てきたら、まずは友達と会話をして使ってみる、ということが毎回の授業でなされていました。そしてテストは、日本のテストとは全く異なり、ショートエッセイや手紙（メール）を書くことでした。学んだ知識をただ確かめるのではなくて、それを自分でどう使うのかが試されていました。このような勉強だからこそ、しっかりと語学が身に付いているのだらうと思います。日本人が英語を話せないのは、やはり教育のやり方に問題があるのではないかと痛感した2週間でした。さらに、先生は生徒一人一人の個性や能力をよく理解していて、きちんと生徒のことを考えて授業を進めていることがとてもよくわかりました。また生徒たちと話をしていると、日本語を勉強したいのは日本のアニメを吹き替えなしや字幕なしで観たい、などと強い意志や目標があることがわかりました。これも、日本人が漠然と英語を勉強しているのとは違って、語学を習得するためにとっても大事なことだと実感しました。このように、TAという立場だったからこそ、先生と生徒の両方からいろいろな話を聞くことができ、とてもいい経験になりました。さらに、私が部活で行っている茶道も、4つのクラスで生徒たちに体験してもらうことができました。ただお茶を点ててみるという体験だけでしたが、生徒たちは興味を持って楽しんでくれましたし、後から先生にコピーしていただいた生徒の感想文は、私の予想をはるかに上回ることを感じていて、とても嬉しく思いました。日本人として、そして茶道を習っている人間として、文化を伝えるという役割ができたと思います。

このように、この短期留学では語学を学ぶよりももっと大きな、大事なことを学んだ気がします。そして、これらの学んだことや感じたことを自分の言葉で発信し、もっと深く知るために、語学（英語）を学ぶ必要があるのだと強く実感しました。私は1ヶ月半シドニーで生活をする中で、将来はシドニーに住みたいという夢ができました。今の私ではまだ目標と言える段階ではないので、これからもっと英語を本気で勉強し、自分の将来についてじっくりと考える中で、シドニーで働き、シドニーに住むということを、胸を張って「目標」と言えるようにしたいです。



オタゴ大学
(ニュージーランド)



オタゴ研修を終えて

文教育学部人文科学科比較歴史学コース

2年 佐々木安珠

大学入学以降、思うように英語の勉強時間を取ることができず、焦りを感じていました。その状況を打開し、自分に足りないところを分析して2年次以降に英語力をもっとつけるために、短期留学を決めました。オタゴ研修に決めた理由は、ホームステイ、インターンシップ、大学の授業聴講…と、6週間の中で様々なことに対して初めて挑戦できることに魅力を感じたからです。

ジェネラル・イングリッシュのクラスは常に15人以下という少人数でした。授業はテキストに沿ってディスカッションやエッセイを行いました。緊張感に欠け少し物足りなく感じました。一方、IELTSのクラスは、生徒が7~8か国から構成されていて、彼らと接するなかで異文化を学ぶことができました。また、ブラザーの紹介で放課後には何回かサークル活動に参加しました。自己紹介ひとつとっても生きた英語の勉強になり、メンバーの中には日本語を流暢に話す人を見るのを見て、私もこんな風に外国語を話せるようになりたいと強く思いました。

私のステイ先は、マザーとファザー、2人とも大学生のブラザーとシスターがいました。ファミリーはクリスチャンであるため、食後には聖書を読んでお祈りをして、毎週日曜は教会にミサに行くなど、初めての体験をたくさんしました。ミサの後にはファザーの親戚とともに昼食を食べましたが、ニュージーランドの人々の日常会話を垣間見ることができ、とても興味深かったです。

インターンシップ先はアートギャラリーでしたが、移転直後のため主に片付けや雑誌の整理を行い、そこで働いている方々と英語で話す機会が予想よりも大分少なく、残念でした。聴講では、私の専門である歴史に関する授業のうち、1年生向けの授業に参加しました。講義内容はすでに知っている事柄が多く、聞き取りし易かったです。今となっては、もう少し専門的な授業を探して放課後に聴きに行ってもよかったですと思います。

研修中は語学学校に限らずたくさんの友達ができました。彼らと話す「日本人だから話せない」のは甘えだと実感しましたが、逆に一生懸命伝えようとすれば、何度も言い直したりして時間がかかったとしても、お互いに想像力を働かせて理解できることがわかりました。また、この留学を経て、初めて海外で長期間自分一人で暮らしたことが、大きな自信になりました。もちろん、一緒に研修に参加したお茶大生やホストファミリー、日本の家族や先生など、多くの方の助けがあったからこそ無事に研修を終えることができ、本当に感謝しています。6週間では英語力を大幅に伸ばすことは難しかったですが、だからこそこれからも英語を継続して勉強する意欲がわきました。今後も英語を使ってコミュニケーションを取ることを続けていきたいと思っています。



My 6 Weeks in Dunedin ☺

オタゴ大学附属語学学校での6週間

文教育学部 人間社会科学科 心理学コース 2年

三上奈緒子 1310439

My 6 weeks have passed so quickly in Dunedin, this is because all of my experiences there are precious for me. This was the first time for me to study abroad and to have a prolonged stay in a foreign country.

To be surprised, I could get along with the life in Dunedin soon. My host family always told me to help myself, so I could relax in the house.

We had the classes at language center, an internship program and lectures at the university. I enjoyed my class at language Centre so much. Teachers and classmates were so kind, and always encouraged me to speak English and gave me the chances. There were not only the students from Japan, but also the students from Saudi Arabia. I could not communicate with them well at first, but we could get along better as time went on.

I also enjoyed the weekends with my host family or my friends. I went to a local Japanese restaurant and had udon! It was interesting for me to find “Japan” in New Zealand, for example, there are so many Japanese used cars.

→ Wakame Udon!!



↑ On the campus
A beautiful and sunny day!



Precious Memories in New Zealand

Yui Hatanaka

Department of Food and Nutrition

The reason why I decided to join this program is because I wanted to be able to talk with people from abroad in English. I knew that it is difficult for me to listen to English they speak. Studying abroad was the best way to improve my English skill, I thought.

We had two General English classes in the morning and a TOEIC class in the afternoon every day. In those classes, we had some students who were from other countries. In the classes, we had many discussions, speeches and group works.

I attended a lecture of Otago University. I chose nutrition class. The content of the class was what I had learned in Japan, so I was able to understand what the teacher said and it was interesting.

I did internship at The Good Earth Café. I made salmon bagel, french toast and so on. Not only could I have working experience, but also I enjoyed communicating with people who work there.

I shared a lot of memories with my host family. I had host father, host mother, two little girls and their big brother in my family. I played with the girls after school every day. I have no opportunity to play with little children in Japan, so I really enjoyed it. My host parents were really kind to me. They picked me up when I came back home after it got dark and took me various places. They let me keep my rhythm of



life. I was able to be relaxed at home. Dunedin is a small town, so they know each other. It enabled me to talk with many people.

What I learned through this program is that it is very important to have confidence in my opinion. I felt Japanese students were shy and hesitated to speak in classes. I was said, “Why don’t you say anything? Say your opinion.” with smile by my classmate who were from Saudi Arabia. For them, it is incomprehensible not to say anything though I have my own opinion. After that I tried to say my opinion as many as I could. It changed my mind and it will have positive effect in my life.

I want to study abroad again, but it needs a lot of time and money. This is because I will not study abroad in two years. However, after graduating university, if I have an opportunity to study abroad, I will be willing to do it.

If I don’t speak English, I will decline in my English skill. In order to prevent it, I want to study English by myself and I’m thinking of taking part in an English speaking club.



My various experiences in New Zealand

Miho Imamiya (social science and family study 3rd)

I could experience and learn many things in this six weeks program, I want to tell about three things which I felt strongly.

First thing is that I could notice difficulty to study and to live with native people by using only English, and importance to keep making efforts in such an environment. As for my English skill I especially felt a lack of my speaking skill. When we discussed with other students from other countries in classes, or when I talked with student and teachers of university, or when I talked with host family, I had a lot of things which I wanted to talk about but I couldn't tell those things clearly. But I thought that "I came here to improve my speaking skill, so I have to do my best to be able to tell everyone what I think and feel about. Also I could challenge what I was interested in, for example volunteer, cooking lesson. These things became good experience for me. I felt it was important to keep challenging something, not to give up because of lack of English skills.

Second thing is that many students from other countries well knew about not only own country but also world, and they had their opinion about it. We had chances to talk freely or tell own opinion about topics which we did in a textbook. When we did these discussions in our class, I was very surprised that they told own opinion clearly, and they also talked about condition of own country concerned about the topics. But I could not tell my opinion clearly. Also when I was asked how about Japan about topics, I could not answer well. I felt I had to have interest to things which happens in Japan or in the world, and I thought it was important things if we want to keep studying English.

Third thing is that there were a lot of things which I could not have known, if I had not lived there. Although I stayed only six weeks, I could notice some differences of lifestyle compare to Japan. First thing is that people get up early and go to bed early, also many shops and transportation stop their service in early time than Japan. Because of these



things, they finish their job in early time so they spend longer time with family even if it is weekdays. Second thing is that in Japan many adult people spend most time for their job, but in New Zealand many adult people spend longer time with family. I felt they spend longer time with their children and men did more housework than Japan. I could not notice these differences without staying with native people. I can't say which life style is better, but I think we can live better life through living with people who have different culture and thinking again about own life style.

In this six weeks program, I experienced many things and met many people. Through this program I could face and think well about my feature or way of thinking. Thank you for host family, friends, and teachers. I want to utilize many things I could experience to my study and life from now on.

The Precious Experience in Dunedin

Shiori Suzuki

Food and Nutrition

I took part in the program in order to improve my ability of speaking English. Although I'd been studying English for more than 8 years before I went to New Zealand, I couldn't speak it very well. I read many articles, learned many words and idioms by heart and practiced English-Japanese or Japanese-English translation in English classes. However, I didn't have many chances to speak English with native speakers. So I was poor at speaking. I really wanted to speak English more and improve my ability. That's why I participated in the program.

In this program, I had many precious experiences. Especially, I was surprised to see foreign students talk about so many things in the world in the classes. Most of Japanese students couldn't speak so much at first, but foreigners spoke actively. They spoke about not only their countries but also in the world. I felt inferior to them because I didn't

know much about in the world. On the contrary, I couldn't tell them about Japan very well. I found I didn't know much about things in Japan, such as government and systems of everything. I felt I had to be interested in everything in Japan.

I thought the air in New Zealand was very fresh and clear. I could see so many stars when I looked up at the sky at night. I was moved to see that. It was so beautiful that I can't describe very well. I'll never forget that sky.

Through the program, I learned how important to be active and positive is. It is important to tell my opinion to others, so I won't be shy to speak in front of many people.

I really want to go abroad again to study, but I can't. So I'll keep studying English in Japan, using some kind of materials. I won't waste my precious experiences in Dunedin.





Wonderful Life in Dunedin

生活科学部食物栄養学科 目崎萌香

私がこの研修に参加しようと思ったのは、高校生のころから短期留学してみたかったからです。今まで海外に行ったことがなかったので、行く前は不安もありましたが、いざ行ってみると毎日楽しく時間はあっという間に過ぎてしまいました。

Language Center

Language Center には予想以上に日本人が多くて、初め私のクラスは一人以外日本人でした。それでは日本にいるのとあまり変わらないなと思い、がっかりしていましたがだんだんと違う国の生徒が入ってきました。最終的に私のクラスは6か国の生徒が集まりました。一緒に授業を受ける中で、その国独特の英語の発音の癖や文化の違いに気づかされ面白かったです。また、年齢層も幅広く私たちのように大学生もいれば卒業している人もいて新しい価値観を学ぶことができました。先生は皆優しく発言を促してくれました。せっかく海外に来たのだから発言しなくてはもったいないと思い、積極的に発言するよう心がけました。日本以外の生徒は積極的に発言していて刺激的でした。

Homestay

私の host family は host mother と host father の二人でした。しかし、host father は仕事で度々出張していたのでほとんどの時間は host mother だけでした。host mother はいつも話を聞いてくれてご飯の時やテレビを見ながら会話を楽しみました。初めはうまく聞き取ったり話したりできませんでしたが、段々と話せるようになりました。休日には Otago Peninsula や St.Clair Beach に連れて行ってくれました。また、一緒に料理もし、一緒に過ごせる時間を大切にしました。たまに孫が遊びに来て一緒に遊んで楽しみました。帰り

の際には空港まで見送りに来てくれてぎりぎりまで一緒に過ごせました。host family には本当に感謝しきれないくらいお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。



Internship

私は服やアクセサリの売っている小さなお店でインターンシップをしました。インターンシップの間、服やアクセサリの配置を変えたり、マネキンの服を変えたり、アクセサリのタグをつけたりしました。店員さんはいつも優しく声をかけてくれました。週に1回しかなかったですが、現地の人と話す良いきっかけになりました。

聴講

私は日本語と栄養の授業を聴講しました。日本語の授業は日本にはない授業なのでとても新鮮でした。授業では生徒一人一人と会話をし、わからないことを教えてあげました。栄養の授業は朝8時からありました。9時から Language Center の授業が始まるのでその前に聴講しました。日本で学んだことを英語で学ぶのは面白かったです。また、日本の授業では習っていない内容もやり、すべてを理解することはできませんでしたが授業の雰囲気を感じることができました。実は初めは Language Center の授業に支障が出ないように、一人1教科だけ聴講できるようになっていました。しかし、栄養学はどうしても受けたかったので先生に相談しに行ったところ、受けられるように交渉してくださいました。どうなるかわかりませんが、やりたいことがあったら積極的に発言してみるとよいことがわかりました。

この研修を通し、日本では体験できないようなことをたくさん経験できました。New Zealand のいいところや日本のいいところを知ることができました。そして何より host family や友達に出会えたことは私にとって大きな出来事となりました。温かい人たちに出会えたことに感謝しています。またこの研修に行けたのは日本の家族のおかげでもあるので感謝したいです。この経験をこれからの生活に生かしていきたいと思います。

ニュージーランドでの研修は、とにかく毎日が楽しく、あっというまに過ぎ去ってしまいました。

ステイ先に到着した時は、会話もままならず、ニュージーランドの訛りも聞き取れず、この状況に一人で置かれるということが非常に不安でした。しかし、ホストファミリーが温かく迎えてくれたことや、ゆっくり慣れていけばいいという姿勢で接してくれたことで、逃げ出したいと思うことはありませんでした。ホストシスターと台湾人のホストメイトといっしょにお菓子作りをしたり、ボードゲームをしたり、近くのビーチまで散歩したり、非常に居心地良く過ごすことができました。毎日ホストファザーが作ってくれるディナーがおいしく、デザートまであったので、インスタントの日本食を持っていったのですが、けっきょくほとんど手を付けることなく終わりました。

家は大学やタウンからかなり離れたオタゴペニンシュラにあり、自家用車が唯一の交通手段というように交通の便は悪かったのですが、海と放牧地に囲まれた静かで落ち着いた、ニュージーランドらしい環境で6週間を過ごしました。家の窓からは、海や放牧されている羊の群れが見えました。周りには建物や街灯といったものが何も無いので、とにかく天空現象が美しかったです。夕焼けや朝焼けの時間は、空一面が暖色に染まり、徐々に色が変わっていく様子が見え、飽きることがありませんでした。また、夜は星が驚くくらいたくさん見えました。天の川や流れ星がこれほどよく見えるところは日本にはなかなか無いのでは無いかと思います。

自然豊かなニュージーランドを満喫し、喧噪から離れてリラックスできたことも、この研修に参加してよかったと思ったことの一つです。

Language Centre では、さまざまな国出身の人たちと交流することができました。国の名前や地理、経済状況を知っていても、その国の人々に関わらなくては見えてこないことや感じられないことがあるのだということを実感しました。何となく疎遠なイメージを抱いていた国や全く知らず興味も無かった国の人たちと直接関わったことで、国では無く個人の集合としてのまとまりととらえるべきなのではないかということ強く感じたり、その国のことをもっと知りたいと思ったりするようになりました。

実際に見て感じたものにこそ依るべきなのだという考え方を持つことができ、自分の視野が以前より広がった気がしています。

英語学習への動機付けになったということと、日本ではできない経験をして精神面で豊かになれたということがこの研修の成果だと自分で感じています。



Wonderful Days in Dunedin

Six weeks in Dunedin passed very quickly, but I had a great experience thanks to my parents, teachers, friends and host family.

At the Language Centre, I met many friends from around the world. They had their dreams and goals, and made an effort to realize them. Their earnest attitudes for study served as a stimulus for my study, and I came to think I had to broaden my outlook on my future.

About a home stay, I had a lot of exciting experiences with my host family during my stay. They took me to many places, like a beach, Larnach Castle, blue penguin colony, and so many. Moreover, on my birthday, they held a party at their home, so I invited three my friends and enjoyed having dinner together. It was a great memory. I really enjoyed spending time with my host family, so it was hard for me to say goodbye to them. I promised to come back to Dunedin someday. I really appreciate them that they supported all my study and everyday life, so I will never forget their kindness and a happy time with them.

In addition to that, during my stay I talked with many friends about our dreams, and I realized that there were a lot of opportunities and choices in my life. So thanks to this study program, I could have a wider view than before. And sometimes we tend to be too passive, but actually there are many chances; therefore, I learned I had to set my own goal and try to achieve it. Staying in an unfamiliar place involves challenges, but it is sure to become a precious experience. I am really satisfied to join this study program and I will never forget my days in Dunedin.





ヴァッサー大学
(アメリカ)



My precious days in Vassar Misaki Saito

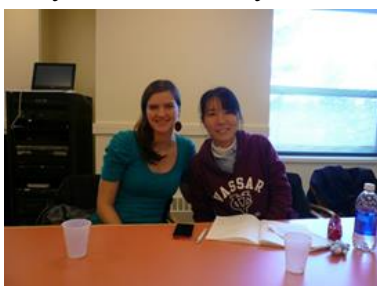
I went to Vassar College to interact with local students in Vassar and understand international cooperation in February. At first, I was really nervous to get along with other students in the United States because I was worried about my English skills. I tried to convey my feelings even if my English was broken. I always tried to be positive and I told myself, "Don't be shy," in my heart again and again. Thanks to these efforts, my short stay in Vassar was really fruitful for me. In this paper, I would like to show three episodes. They are a group presentation about volunteering, my lunch time, and taking a local class about comparative education.

I performed a presentation on the topic of "Why is the volunteerism less common in Japan than in the United States?" with two other students in Ochanomizu University. Of course, this presentation is subject to be did in English, so I had to make slides in English and write script also in English. These were hard burdens for me and sometimes I was likely to give up. But my group members and my teacher gave me a lot of advices and encouraged me to keep on practicing in order to have a confidence in myself. Our team practiced many times and every members almost can explain without looking at scripts. I could do my best at the presentation and local students and teachers praised our presentation, so I was very happy and satisfied.

The next topic is about my lunch time. When I came to the college, I made a rule by myself. That is to ask a local student to eat for lunch on the day I attended a class just before lunch time. The reason I made this rule is to overcome my shyness and make more opportunities to improve my English skills. Sometimes I was rejected but I did not care about it and asked another students. Consequently I could eat with local students every time I tried to do so. Sometimes they brought me to their favorite restaurants. I really enjoyed not only eating but also chatting with them. They were kind enough to teach me a lot of English vocabulary and collocations. I deeply appreciated their kindness and decided to become a better English speaker and come back to Vassar College as an exchange student in two years.

As the last episode, I would like to illustrate how the local class I attended is. I attended at the comparative education class and the number of the students is about twenty. A teacher was very friendly to students and most students took a positive attitude compared to most general students in Japan. Most students in the class eagerly asked questions and thought educational problems we learned as if they had held the same problems. I was shocked at the enthusiasm of the students and understand the real meaning of studying by students and for students. Influenced by an academic and positive atmosphere in the class, I decided not to hesitate asking questions during a class even after I came back to Ochanomizu University.

To sum up, I experienced precious things at Vassar College. Besides three examples mentioned, there are a lot of good memories I would like to write about. Why could I get these precious things?-It's because I kept on thinking what I should do in order to make the best of this opportunity and tried to put them into practice. But of course, plenty of heart-warming help from my family, teachers and friends are necessary for this. Thank you very much for everyone.



ヴァッサー大学短期研修を振り返って

グローバル文化学環 2年 野村佳織

ヴァッサー大学での国際フォーラムは10日間という短い研修でしたが、プレゼンテーションをしたりディスカッションをしたり学生と交流したりと、とても中身の濃い、楽しくて実り多いものでした。研修の間ずっと一緒にいてくれたり、私たちが暖かく迎え入れてくれたヴァッサーの学生たち、そして発表を助けて下さった越智先生など、この研修に協力して下さった沢山の素敵な方々のことはずっと忘れません。

ニューヨークに出発する前から事前研修として発表の準備を行い、トピックを選び、問いを立て、検証し、結論を出すというアカデミックなプレゼンテーションを越智先生の指導のもと作成しました。こんなに本格的なプレゼンをしたのは始めてで、3月にお茶大で開かれた国際フォーラムでも発表し好評を頂きました。ヴァッサー大学との国際フォーラムは両大学の学生によるプレゼンテーションとディスカッション、311追悼イベント、フェアウェルパーティーなど様々なイベントからなっていました。公式なイベント以外にも、大学の授業を聴講させて頂いたり、日本語のクラスの学生とカラオケパーティーを開いたり、ピザパーティーをしたり、一緒にご飯を食べたり、色々な楽しいことがありましたが、ここでは最も印象に残った3つの出来事について書きたいと思います。

1つめは、ディスカッションです。環境問題や人権問題について議論したのですが、アメリカと日本で様々なことに対する価値観が大きく異なっていて、ショッキングでした。グローバルな問題を考えるときに多様な価値観に触れ、それらを念頭に置いて考えることがいかに大切か痛感しました。一方で日本のポップカルチャーが予想以上に知られていて、文化は国境を越えるのだと実感しました。2つめは、3.11追悼イベントです。今回お茶大生には二人、東日本大震災を東北で経験した人がいたのですが、その二人が自らの体験を語ってくれました。私を含めその場にいた多くの人にとって被災者の話を直接聞く初めての機会でした。聞いて感じたことは、ニュースで伝わってくる「地震」「津波」「原発事故」の裏に多くの人々が振り回され、被害を受け、それでも懸命に生きようとしていた事実があることでした。私自身もあまり想像が及んでいませんでしたが、震災について各々が自分の問題として考える努力をすれば、今後防災復興をどうしていくべきなのか見えてくると感じました。3つめは、自分の英語力不足を実感したことです。授業を聴講しても内容が殆ど理解できず、また現地の学生のランチに一度日本人一人で混ぜてもらったのですが、聞き取るのも大変だし話すのも必死で頑張りましたが後で文法がめちゃくちゃだったと気づいてとても恥ずかしくなりました。夏から留学に行きますが、このままでは言葉の壁にぶち当たってしまうという危機感を覚えました。

マンハッタン観光を含めた10日間の研修は本当に夢のような時間でした。そこで得た経験や出会いをずっと大切にしていきたいと思います。



My Wonderful Experience at Vassar College

Nodoka Yokokawa

The goal for this program was to understand people from different backgrounds. So all the students who went to Vassar College made a presentation related to international understanding, international cooperation, and international relationships. My group



presented about 'Why is Volunteerism Less Common in Japan than in the US?' Our group did a survey and found out that our hypothesis about the experience of volunteering is an advantage in America was right. I thought that the result of the survey was interesting.

We also discussed international issues with students at Vassar College. They spoke in fluent Japanese and I was really stimulated. Some of the Vassar College students sang songs that wished for the fast recovery of the Tohoku earthquake. I was shocked that many people who live far away cared about Japan and the people living there. In Japan the interest of the earthquake is getting smaller and I was one of the person who was starting to forget about it. However the experience at Vassar College made me realize that I was doing the wrong thing.

We not only did studying but we also played a lot. After we finished our presentations, we had Karaoke Party and ate pizza together. On the weekends, we went to New York City and did shopping and sightseeing. Before the day we left, Vassar College students had a farewell party for us. I made many friends and talked about so many things.



The 10 days I spent at Vassar College was like a dream. Making presentations and discussing in English was difficult, although there were many things I learned from it. I am thankful for the people who had supported me. I would not forget this experience and try to make more progress in English and think more deeply about the earthquake and international issues.

2014年春期語学研修プログラム報告書

派遣先：アメリカ Vassar College

期間：2月16～2月26日

文教育学部人文科学科グローバル文化学環2年1310133 田島 瑞保
<Vassarでの思い出>

私が参加したVassarプログラムは10日間という他の語学研修プログラムよりも短いものでしたがとても内容の濃い時間を過ごすことができた、と帰国から日数が経った今でもはっきりと感じます。Vassarでの私たちの研修テーマは「東北大震災を中心に国際協力について考えること」でした。Vassar Collegeはお茶の水女子大学の協定校であり数年前から国際学生フォーラムを開催していたそうです。今回のプログラムはそのフォーラムの一環でした。

今回のプログラムの主なコンテンツである国際フォーラムでは、お茶大生はグループにわかれて「国際協力」というテーマに沿ってプレゼンテーションを行い、Vassarの生徒の同様なプレゼンテーションも聞いて英語と日本語を使って議論をしていきました。その議論に参加していたVassarの学生は非常に日本に興味を持ってきている学生だったためそのフォーラムを通して彼らの存在に刺激を受けました。プレゼンテーションの他には校内案内やフェアウェルパーティー、そしてニューヨークシティの観光などのイベントをVassarの学生たちが催し、サポートしてくれました。正規授業を聴講し政治学や歴史を意欲ある学生たちの中で勉強する機会も得られました。たった10日間の滞在でしたが、Vassarの学生の皆さんのおかげで私たちお茶大生はこの滞在期間を余すところなく全力で楽しみ尽くしたような気がします。交流したVassarの学生は私の思い出の中でもとても印象的でした。出身、宗教、考え方、趣味、セクシュアルアイデンティティーについても多様でありお互いにその個性を受け入れているという点でとても開放的に感じられました。そういった意味で「外国人」としてはとても過ごしやすい環境でした。

この語学研修を通して私は改めて「様々なバックグラウンドを持った人々と協力して何かを作り上げたい！」という自分の夢を強く持つことができました。価値観の多様性に触れたこと、そして自分の将来の目標である国連本部を訪れたこともとても良いモチベーションになりました。海外留学の良い点は英語を勉強することではなく、新しい環境で多様な人々に出会いあらゆる語学を使ってコミュニケーションをとる楽しさと難しさを味わえるということだと思いま

す。この醍醐味を味わうことができたのもグローバル教育センターの先生方と Vassar の学生、そして個性豊かなお茶大の参加者メンバーに恵まれたからだと感じています。ありがとうございました。



滞在中の宿舎



カフェテリアで仲良くなった学生たち

アメリカ留学を終えて

文教育学部言語文化学科仏語圏言語文化コース2年

1310244

高橋 佑里

この研修を終えて私が見つかった最たるもの、それは私を照らす希望の光である。東日本大震災をテーマとして VASSAR 大学での国際フォーラムに参加し、現地の学生と意見を交換することは貴重な体験であり、同時に私が自分の経験を振り返るきっかけとなった。

そもそも仏語圏言語文化を主専攻とする私が、なぜアメリカに留学したのか疑問かもしれない。しかし私にとって、理由は明確だった。私は東北の宮城県出身であり、東日本大震災の被災者だ。震災を経験した人間として、少しでも多くの人に当時の、今の日本を知ってほしい。あの震災は、私の心に大きな傷を残していった。私が自らの経験と向き合い、前に進むためにもこの留学は大きな意味を持っていたのだ。

フォーラムに参加し、それぞれの意見を聞くうちにやはり自由の国アメリカ、発想が本当に自由だった。空を飛ぶ物資配給船と聞き、たしかに現在の技術では実現は難しいものの、近い将来災害時には活躍しているかもしれない。「もし〇〇があったら□□できたのに」と後ろを見るのではなく、「同じような状況下で今度は何ができるか」と前を向くこと。震災でのトラウマにおびえていた私には、それはアメリカの学生からの叱咤激励にもとれた。

もうひとつ、休暇を利用して NY に行った際、私が小学生の時に英語を習った ALT の先生と再会できた。彼は再会をととても喜んでくれ、同時に震災のことで日本や私の家族を心配していたこと、今の自分ができることはないかと考えていることを話してくれた。何年経っても、日本のことは忘れない。そして日本人はどんなに自分がつらくとも笑顔で人のために「がんばります。」と言える民族だと知っているからこそ、日本で得た「察する心」で日本人の気持ちを察し、力になりたい。そう語る彼の姿には、たしかに日本の美しい文化が受け継がれている。日本を出てなお日本の文化に気づかされ、私は日本人としての誇りを取り戻したのだ。

今、私は震災のトラウマの治療を終え、新たな一步を踏み出している。自分の専攻である仏語圏言語文化で日仏の交流を探るうちに新たな希望を見いだしてもいる。かつてフランスでは養殖の牡蠣が病気で全滅するという痛ましい出

来事が起こった。その際新たな種を提供したのは、なんと日本の松島の牡蠣養殖産業だ。そして東日本大震災で被害を受けた松島地域のために、今度はフランスから網などが提供され、牡蠣養殖は復興に向かっている。

ずっと目を背けていた震災の記憶と向き合い、またアメリカの自由な考えと自分に自信をもつことの大切さを知り、この経験は私の人生の大きな糧となった。同時にこれからの大学生活に存分に生かしていけるだろうと、私は確信している。そして私のこの経験が、再び誰かの心の存在を照らすものになるために、勉強はもちろん復興活動にも力をいれていきたい。



(先生との再会時の写真)

ヴァッサー大学での研修を終えて

<はじめに>

わたしは小学生の時から英語を学んでおり、英語は学ぶ対象であるという認識がとても強くありました。昨年参加したオーストラリアのニューサウスウェールズ大学での研修でも、学校では主に文法や読解を勉強しました。もちろん文法を確実に身につけるといことは英語を使う上でとても重要なことですが、今回の研修で、英語は言語であり、言語は実際に使わなければ自分のものにするにはできないということを感じました。

<研修内容>

この研修は、他の短期留学とは少し違い、英語を使って何かを伝え、そして意見交換をするということが目的でした。お茶の水女子大学からの参加者とヴァッサー大学からの参加者は数人のグループにわかれプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは国際協力を大きなテーマとして各グループが様々な視点から行ったため、日本人の学生のものも、アメリカ人の学生のものもとても興味深く、次世代を担う者として国際関係を身近なものとして考えなければならないと改めて思いました。使用言語は日本人は英語、アメリカ人は日本語を使ったのですが、どちらの言語を使っているときでも、内容の濃い討論ができたと思います。しかし、わたし自身は、意見があっても単語が出てこなくて言えずにもどかしい思いを何度もし、やはり普段から英語で自分の考えを表現するということが大事なのだと改めて思いました。また、ヴァッサー大学の正規授業の聴講もとても面白かったです。わたしはお茶の水女子大学で副プログラムとして日本語教育を学んでいるのですが、日本ではなかなか実際の日本語教育の場面を見ることはできませんでした。しかし、ヴァッサー大学で初級、中級、上級のすべてのレベルの授業を見る経験をさせていただき、海外で日本語はどのように教えられているのか、学習者の苦手なポイントは何かを学ぶことができました。この経験はこれからの学びにとっても役に立つと思います。



<おわりに>

今回の研修は10日間ほどの短いものではありましたが、ヴァッサー大学に行って、文法の正しさを意識するあまり会話ができない自分から、話すということに自信を持って相手と本当のコミュニケーションがとれる自分に成長できたと思います。これからの学習は、自分の考えを相手に伝えるということを重視して行っていきたいと思います。

ヴァッサー研修を振り返って

言語文化学科3年 吉田真央

はじめに

私は「国際学生フォーラム」の一環であるヴァッサー研修に参加しました。11日間という短い期間ではあったものの、とても充実した研修生活でした。この研修を通して学んだことは今後の学生生活の糧となっていくと確信しています。この振り返りを通して海外に目を向けているみなさんの背中を押すことができれば幸いです！

研修内容

① プレゼンテーション

本研修の目的がこのプレゼンでした。国際共生というテーマのもと、それぞれが関心のあるトピックに基づいてグループでのプレゼンを行いました。私たちのグループは「複言語主義」をテーマに言語と文化がグローバル化している社会にどのように関わっているのかについて発表しました。なじみのないテーマなので文献で一から調べ身近な人にアンケートを取ったり、講演会でお話を聞いたり結構ハードでしたがみんなで繰り返し話し合いを重ねたことでとても中身の濃い発表にできたと思います。

② 正規授業参加（聴講）

日本語クラスへの参加と興味のある分野の授業を聴講させていただくことができました。教育に関する授業では日本の教育についてインタビューされ、私が思っていたよりも深く授業に参加したことでヴァッサーの学生の授業に対する取り組み方や熱心さを実感することができました。

その他の活動

滞在中は日本語学習者の学生の皆さんがサポートをしてくれてそのホスピタリティに感動しました。私たちの受け入れ担当の先生も excursion やカラオケパーティー、フェアウェルパーティーなどのイベントを企画してくださり1日1日があっという間でした。

さいごに

私は今回の研修でアメリカ初上陸でしたが、ヴァッサーの学生や先生、近くのカフェのおじさんおばさんの人柄に触れることで今まで持っていたアメリカに対する少し怖いというイメージが変わりました。その国の人と実際にコミュニケーションを取ることでもっと好きになれるというのは本当だと実感しました。

今回一緒に研修に参加したみんな、越智先生、森山先生本当にありがとうございました！



It was a first visit for me to the east coast in the U.S. The purpose I joined this program was to keep studying English and improving my English skills. I studied abroad to California last summer and had really good experiences. So I expected to have good ones, and I achieved my aim.

The aim of this visiting was to exchange thoughts about international relationships. I prepared presentation about “Plurilingualism”. Actually I was not familiar to this topic, so the other students of our team helped me a lot. I was wondering our presentation would be success or not during this visit.

The first couple of days, I and other Ochanomizu students walk around Vassar campus with some Vassar students that studied Japanese. They had much information about Japan and their Japanese skills were so good. I didn't want to hang out with Japanese students so one day I talked to a student that was friend of my senior and talked over cup of coffee. I really proud of myself and felt my English skills was good.



The day of our presentation, I was very nervous but I managed to finish it. Some students and teachers made questions, and we made a small discussion. Honestly I was not relieved my presentation because I didn't totally understand our topic. Now I think I have to study about Japan such as Japanese culture.

Presentations of other students were also good. But generally I thought those of Vassar students were much better. They were creative, thoughtful and sophisticated.



We learned a lot from them.

After our presentations, we went to New York downtown city. I could visit everywhere I wanted to. It was the best city I have ever been to.

I can say I will keep study not only English but also Japanese culture to exchange various thoughts and ideas.



メトロポリタン美術館にて。広すぎて迷路のようですが、一見の価値あります。



大学の図書館の暖炉前にて。歴史ある建造物…という雰囲気の一つの観光名所に来たような気分でした。瞑想室があって仮眠室として使えそうでした。お茶大にも欲しい。

ヴァッサー大学短期研修レポート

生駒有紀

“たくさんの絆と巡りあって”

私は今回の短期研修以前に同大学へ一年間交換留学をしていました。約半年ぶりに大好きなヴァッサーを訪れる機会をいただくことができ、本当に充実した時間を過ごせました。滞在自体は一週間ほどでしたが、私たちの目的は両大学間で開催される3. 11を通して国際交流を考えるためのフォーラムに参加（研究発表や討論）することです。お茶大から参加する学生たちは研修に先駆けて調査やプレゼンづくりに励みました。週に一度参加者全体でランチミーティングをし先生にアドバイスをいただいたり、専門家のお話を聞いたり、アンケートをとったり。気づけば実際に研修に臨むころにはみんな仲良しになっていました。帰国してしばらく経った今もそれは変わっていません。海外研修に行ったからこそ意外にもお茶大の中での「絆」が広く深くなったわけです。さて、実際にヴァッサーに到着して、私は個人的に旧友や先生との再会を大いに楽しむこともできましたし、両大学の友達をつなげることができとても嬉しく思いました。そしてもちろん短期研修中に新しい出会いもたくさんありました。一番お世話になったヴァッサー大学日本語学科の学生たちは、日本人である私たちが見習いたいくらい「おもてなし」精神にあふれていて、キャンパスからニューヨークの街まで案内してくれましたし、私たちに不自由のないようフレンドリーに接してくれました。私たちも日本に海外から来た人々に対してこうありがたい、今回の恩返しをしたいと思いますとお茶大組で話し合ったほどです。滞在は短い期間でしたが驚くほど様々な出会いがありました。今も出会った人たちとは SNS 等で「絆」が続いています。前述のヴァッサーの学生はもとより、ニューヨークの街でたまたま知り合った人、飛行機で隣に座った人とまで！このように個人親交レベルの絆は大充実でしたが、それだけではありません。フォーラムのプログラムに沿って国際交流や多文化社会について発表や議論をする中でヴァッサーの学生を見て、「自分の国のことではないのにここまで深く考えて、想ってくれているのか」と感じる場面がいくつもありました。震災やアジアの諸問題について、とても真剣に、私たちの言語で語ってくれる学生たちを見て、このような「個人」が集まれば「国」レベルの絆、それも国益など関係なく思いやりからくる本物の「絆」を築いてゆけるのではないかと思いました。当事者ではなくてもお互いの国の問題についてともに心を痛め、悩み、解決法を探ってゆけるような誠実な「絆」が多くの国に広がることこそ真のグローバル化と言えるのかもしれません。…なんて言ってみたくらい、語り切れないほどたくさんのものを得ることができた濃い短期研修でした。研修を通して関わることできたすべての方々に心から感謝しています。



Vassar 研修を通して

文教育学部 言語文化学科 グローバル文化学

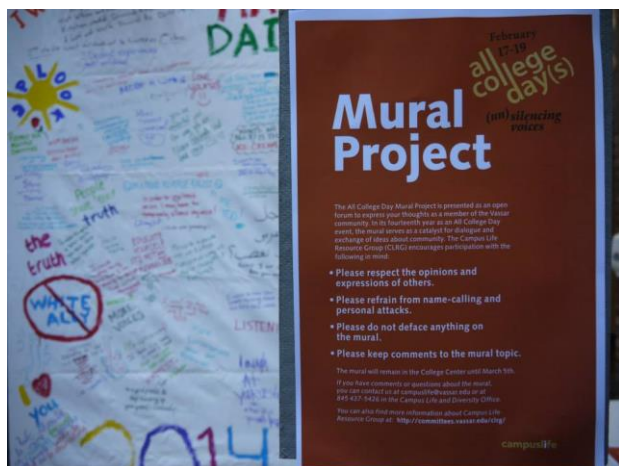
萩原望

「トンネルを抜けるとそこは雪国であった」空港からニューヨーク郊外に位置するヴァッサー大学までのバスからの景色は、都会だったのがみるみるうちに深く積もった雪山と変わり、雪国を彷彿させました。そんな自然に囲まれた地でわたしは、現地の学生に日本語を教え、東日本大震災についてのプレゼンテーションをしながら10日間という短くも充実した期間を過ごしました。

ヴァッサーで学んだことは多くありますが、一番印象に残ったこと、それは「生徒の自立性」です。みなさんは知っていましたか？東日本大震災の際、ヴァッサー大学の生徒がみずからチャリティイベントを行い、募金活動をしていたことを。私はこのことを知った時、思わず涙が出ました。こんな遠い地の生徒が、外国のために惜しみなく手を差し伸べてくれていた。日本人さえも、震災のことを忘れかけているのではないかとされている中、ヴァッサー大学の生徒たちはいまでも東日本大震災について真剣に考えています。震災のみなく、ヴァッサー大学では、生徒主体の活動が活発です。たとえば、LGBT当事者の支援・自然愛護・北朝鮮の人道支援……。難しい問題だから、関係がないからと他人ごとにする事なく、常に自分自身も関係しているとしながら行動に出る生徒たちの姿から学ぶことはとてつもなく大きかったです。

加えて興味深かったのは、ニューヨークシティを観光した際、場所ごとにくると表情を変えていくありさまでした。コンクリートジャングルには様々な人がいます。私たちのような観光客、**chance** や **opportunity** を見つけに来た移民、五番街を歩くビジネスマン……。のように。顔だけでは、誰がニューヨーク市民で誰が外来者なのか分からないのです。まるで、そこに存在する人全員が「NYC」という地を作り出しているかのようでした。そんな時、東京はどうだろう？外国人にとって、居心地の良い場所なのであろうか？ということが頭をよぎりました。

以上のようにこの研修は、わたしにとって自分や日本を見つめなおし、問題提議の場でもあったのです。ニューヨークで見つけたことを、今後につなげて行きたいです。



The Caution in Communication

The Course of Global Studies

Mizuki Kuramata

Covered with the white and drifted snow, a nostalgic style house stood on the hill. The house was shining reflecting the sunlight.



Although we stayed there only ten days, I have attachment to it as the symbol of the beautiful memory. The main aim of this training course was the international student forum and international exchanges. As for the forum and the joyful days, some of my fellows will write about it, so I will describe about my experience about international communication.

I attended the regular class in the collage. I participated in four classes, and the one of Japanese literature was most impressive for me. In the class, I realized my stand point abroad.

The main topic when I joined was about “A Serpent's Lust” in the supernatural ”Tales of Moonlight and Rain,” in Japanese “雨月物語・蛇性の姪.” We had discussion about the whole story and general Japanese culture in small groups. Then, I remember that I was asked “What do JAPANESE think about...?” In the other words, they thought of me as the representative of Japanese even if I didn’t think so. Moreover, in the beginning of the class, I was asked by the teacher “Have you ever seen Yu-rei?” I answered “No, but actually I believe it a little.” “Then, have you seen or do you believe Yo-kai?” The teacher asked me again, and I said “Never.” (Classmates laughed perhaps because I denied so seriously.) The teacher said smiling, “This is interesting, isn’t it? Japanese people believe in the Yu-rei, but they don’t believe Yo-kai. So they should be something different.” Of course she said it to the Vassar students, but I felt also interested because I had never thought about the difference of Yu-rei and Yo-kai. However, in my mind, they are different actually. Then, let me say in passing that, does it differ from ghost and monster in English? When I asked it to my classmate, she said “You can write a paper.”

To be representative of Japan is really heavy pressure, but I also think it is an obligation for the people around the world who have special interest in Japan, and only Japanese can do. Then, I also realized



that I do the same thing, in short I sometimes recognize my overseas friend’s opinion as the national consensus. It seems easy way to understand of the people’s mind, but at the same time it could be

dangerous a bit. It is a particular point we have to pay attention in the international communication. I got not only the heartwarming memory but also this caution from the experience in Vassar.



ハル大学
(イギリス)





私は University of Hull の Scarborough Campus に留学しました。Scarborough は北海に面した小さな町です。町と言っても Tesco や Marks & Spencer など大手スーパーが町の中心部にあり、不自由のない生活を送ることができました。町の中心部に行くためには 30 分歩くかバス、タクシーを利用します。町の景色は美しく、30 分歩いても飽きなかったのもバスは 1 度しか利用しませんでした。

Scarborough はかつて夏の避暑地として賑わった観光地です。今でも立派なホテルが残り、海岸沿いには土産物屋やパブ、レストランが立ち並び、何度行っても楽しかったです。ビーチも大学から徒歩圏内にあります。少し歩きますが 2,3000 年前に建てられたという城跡もあり、見どころに困らない素晴らしい町でした。

平日は午後まで授業を受けました。日本人の学生だけで受けた授業は、もちろん全部英語ですが、英語の文法やイギリスの文化を学びました。英文法は日本で一通り学習しているとは言え、英語で学ぶと難しく感じられました。階級社会などイギリスには独特の文化がまだ残っています。勉強してから町に出るとより一層新鮮なものに思えました。

日本の大学生が得意としているのは文法だと思います。中国人留学生と英語を学ぶ機会があったのですが、お茶大生の方が格段に文法を身につけていると思いました。一方で、私たちが苦手としているのはリスニングとスピーキングだと思います。これから短期留学をする学生のみなさんは少しでもリスニング力を上げて行ってください。NHK のラジオ英会話などを地道に続けていくことが大切だと思います。英語を聞いてディクテーションをしたり、シャドーイングをすることでリスニング力は上がると思います。難しい文法を復習する必要はありませんが、何かしら準備をしてから留学すると良いと思います。

海外でも日本のことは意外とよく知られています。思った以上に日本製品が流通していました。日本車はドイツ車と同じくらいよく見かけました。また、日本のマンガ、アニメはとても人気があります。ラトビアでも日本のアニメが放送されていたと聞き驚きました。

ところで、学生のみなさんは日本のことを知っていますか？外国人に日本はどんな国と聞かれてとっさに答えることはできますか？日本ってどんな国なのと何度か聞かれました。2、3分話せるネタを持っていくと困らないと思います。歴史、国土、観光地、社会問題など浅く広く拾っておくと良いと思います。



土日は毎週1泊2日で旅行に行きました。私はヨーク、リバプール、マンチェスター、ロンドンに行きました。ロンドンは2回行きましたが、回り切れませんでした。せっかくイギリスに滞在するので日本から行きにくいところに行った方が良かったと思います。

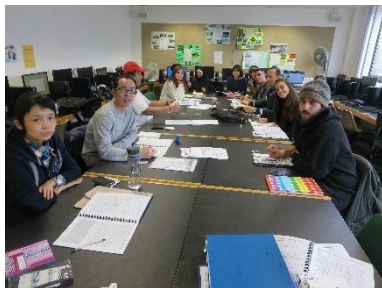
一番のおすすめはリバプールです。川に沿ったとてもきれいな都市で、買い物をするとところが多くあり、博物館や美術館もたくさんあってとても楽しかったです。イギリスに留学する方はぜひ訪ねてみてください。

一人暮らしは初めてだったのですが、ホームシックにはなりませんでした。この短期研修を経て自分で困難に立ち向かい、解決する力がついたと思います。言葉が思うように伝わらなくても生きていけたということは自分の中で大きな自信になりました。これからも海外での経験を生かし、何事にもチャレンジしていきたいです。

My precious experience in the UK

文教育学部 言語文化学科 2年

吉岡ひかり



One of my important experiences in this program was daily classes at the university. We were divided into five groups, and I was only one Japanese in my group. When I first went to the class, I was surprised at how lively it was. There were 14 students from various countries like China, Brazil, Libya, Iraq, Saudi Arabia, and so on. However, all of them used English very well as their way to communicate with each other. Some of them said that they were not good at writing and reading because they did not learn English at schools. Actually, they made many grammar mistakes while they were speaking, but that did not prevent them from understanding each other. Without caring about ages, nationalities, sex, or backgrounds, they insisted on their ideas in a clear voice, frankly pointed out others' mistakes, and would not change their own opinions easily. Also, they took the same attitude toward teachers. Even though a teacher told us a right answer, many students asserted that their own answer was right. Almost all of our classes had a plenty time of discussions, and teachers often encouraged us to tell our opinions. At first, I got confused with such classes and could not speak until I was told to do so by our teacher or classmates. However, through classes day after day, I gradually changed and learned how to use English as a means of communication. Nearly the end of the six weeks, sometimes I could tell my opinion by myself in classes, and took part in each discussion more positively. In addition, when the final presentation finished, I was praised by our teacher for using my spoken English in a natural way. I had never been praised for such a reason, so I was really pleased. I was also happy to be able to talk with my classmates more.

I also had many other experiences through this six weeks. As the program came to the end, I found that I enjoyed my life in the UK with new surroundings, relationships, and challenges. I did not feel like to come back to Japan so soon. Instead, I would like to stay in the UK and have more new experiences, and I was surprised that I had such a positive feeling. My character has not change completely, and my skill of speaking is far from my ideal, but I have much more confidence in myself than before.



留学を通じて学んだこと

文教育学部言語文化学科グローバル文化学環2年 佐藤文香

本当に充実したあつという間の6週間だった。今回私が Hull 大学に行ってよかったと思った理由には大きく2つある。1つは現地の大学で日本語を学んでいる学生とのタンデムパートナー制度があったこと。お互いに相手の言語学習をサポートできるというフェアな関係になることによって、毎週約束をして昼休みに会い、**language exchange** などをしてより親密な交流ができた。日本語を勉強する現地の学生達は日本に関して強い関心を抱いており、私も日本文化を彼らに紹介する中で改めて日本文化の世界への影響力を実感した。二つ目は、少人数クラスかつ日本人が少ない環境で授業を受けることができたこと。今回研修に参加したお茶大生9人で5つのクラスに分けられ、私のクラスには自分以外の日本人がいなかった。クラスにはベトナム、サウジアラビア、中国、イラクと世界各国からの学生がいた。日本語が全く通じず、英語しか使うことのできない環境の中で英語を勉強することはとても贅沢なことであったし、自分の成長につながった。英語という言語を使うことで世界中の人々とコミュニケーションがとれるということは本当に素敵なことだと身を以て実感した。私はいつも日本での英語の **discussion** の授業では文法や発音が間違っていないか、などということばかり気にして自分の英語に自信が持てず、積極的に参加できなかった。今回の留学の中で、私が一緒に勉強した人達は皆英語を第一言語としていない国の出身だった。彼らは文法も発音も必ずしも正確ではないいわゆる **broken English** にも関わらず、とにかく積極的に発言する。文法や発音よりも、自分の考えを相手に伝えることを重視する。この姿勢にはとても刺激を受け、私も次第に文法や発音を気にせず、積極的に発言できるようになっていた。英語を第一言語としてない国の人々と勉強することで、怖気づかずに自分の意見を言うことの重要性を改めて実感した。彼らが必ずしも完璧な英語を話していたわけではなかった、というのもとても大きかった。英語非母国語同士だからこそわかる英語の難しさをわちあえた。すべて英語で説明を受け、それを理解してタスクをこなすことは大変だったが、それだからこそ、良い評価が得られた時とても達成感があった。日本人が自分しかいなかったのも、たとえば宿題を聞きのがしたとしても気軽に聞けるような仲間が最初はいなかった。でもそのおかげで自分の中に甘えや他人に頼ろうとする気持ちがなくなったし、うまく聞き取れなかった部分や理解できなかった部分があったらすぐ先生に聞きに行くような自立心や自主性が高まった。

今回の留学は日本という国を改めて見つめなおす良い機会にもなった。私は今まで海外経験が無く、今回初めて日本から出たのだが、改めて当たり前のように捉えてしまっていて気付かなかった日本の素晴らしさに気付かされた。多くの面において日本はやはり素晴らしいと実感するところばかりだったのだが、一方でイギリスが優れているなど思ったのは、多国籍国家であることだ。大学にはたくさんの中世から来た学生がいる。そして留学生でないとしても、イギリス育ちだが両親はインド人など、様々なバックグラウンド

を持つ人々がいる。様々な文化を持つ人々と出会うことができ、改めて日本という国がほとんど日本人ばかりで成り立つ特殊な国であること、そして自分の視野の狭さに気付かされた。

たくさんの素晴らしい出会いとたくさんの新たな気付きを得て、何より英語学習の面白さに気付くことのできた研修だった。こんなに英語を使うこと、勉強することが楽しいと思えるのは初めてだった。英語をもっと勉強して、生きるツールとして使いたいと思えるようになった。今回の研修の中で支えてくださった皆様に感謝したい。



ハル大学研修に参加して

文教育学部人文科学科2年（参加時） 夏野加奈子

ハルでの生活は毎日が刺激に満ちていました。エンズレイ・センター（宿泊施設）で生活し、毎日大学へ通うなかで、同年代の学生を中心に様々な国籍、文化、背景をもった多くの人々に出会いました。言語・文化の違いによる困難が次々とやってきては乗り越える日々でした。

ハル大学では、留学生がアカデミック英語を学ぶ英語コースの授業に参加しました。論文を読む訓練、エッセイを書く訓練、討論をする訓練、プレゼンをする訓練などを受けました。英語コースはいくつかのクラスに分かれており、クラスごとに毎日同じメンバーで授業を受けます。多国籍クラスで、アジア人が中心ですが、皆それぞれなまった英語をしゃべり、考え方も様々です。授業ではペアや小グループで意見を交換しあう時間が多くあるのですが、最初のうちは、お互いになまった英語が聞き取れないし、英語で上手く話すことが出来ないし、意見の裏付けをするために事例をあげても、それが自分の社会、日本社会においては当たり前でも相手の社会においてはそうでなかった場合、理解してもらえないばかりか不思議がられて終わってしまうという事態でした。英語力がないことはともかくとして、自分がいかに日本を軸にした考え方をしているか、いかに自分にとっての当たり前を当たり前として考えているか、よくわかった瞬間でした。6週間の後半になると、クラスメートとの仲も深まり、いろいろなことをおしゃべりする余裕も出てきます。メディアを介しては見えてこないアジア諸国を見た気がしました。初めはとまどっていた考え方における違いも逆に楽しめるようになっていったように思います。ブリティッシュ・カルチャーを学ぶ授業も受けました。イギリス王室に関してやイギリス人のアイデンティティーに関して学びましたが、遠い地のこととして日本で学ぶよりも、さすが現地でイギリス人の先生から学ぶとリアルなこととして自分の中に入ってくる感じがしました。自分の目線が変わっているのを感じました。

また、滞在中私たちにとって大きな存在であったのが、ハルで日本語を学習していて私たちと交流するタンデム・ラーニング・パートナーたちです。彼らとの交流は日本語がどのような言語なのか、さらにそこから見えてくる日本はどのような国かを考えるよい機会でもありました。彼らとは仲のよい友達になり、イギリスの学生生活に関してなど多くのことを教えてもらい、同じ学生として刺激を受けました。たくさんおしゃべりし、休日にも一緒に遊びに行ったり、勉強したりしました。パートナーの一人は私と同じ歴史学、考古学の専攻で、お互いの好きな時代やどのような勉強をしているかについて語り合いました。私の専攻は日本史なのですが勉強に対するモチベーションの高さが今と渡英する前とでは格段に違います。とても貴重な出会い・交流だったと思います。

今回の研修では、もちろん英語力は向上したと思っています。日本に帰ってきて身の回りの英語だけでなくそれ以外の言語も、ありありと見えて聞こえてくるようになりました。私は将来英語をつかう職に就こうと思っているわけではないので英語力というよりもそれら他国・異文化の存在、自分にとって今までは線をひいた向こう側にあったものを近くにリアルなものとして感じられるようになったことが大きいと思います。また、ものを考えるときに拠り所とする自分にとっての「当たり前」を外からさらに客観視することを学んだことも大きい収穫です。世界を、ヨーロッパを、アジアを、日本を、歴史を学ぶにおいても現代の問題を考えるにおいても見る目が変わったと思うし、自分の中の世界がひとまわり大きくなったと思うし、多様性という言葉が字面だけでなくもっと深い意味で理解できるようになったと思っています。



春季短期研修を終えて

文教育学部言語文化学科英語圏言語文化コース 2 年

1310210

江幡なるみ

高校在学時から留学に憧れ、お茶の水女子大学の留学プログラムが充実しているということを聞いて受験を決意していたため春季休業を機に参加しました。

授業はわからない単語だらけの場合も、先生が丁寧に説明してくれたので授業についていくことができました。初めてクラスに参加した時は皆の英語が理解できず、6 週間やっていけるのかとても不安になりましたが、お互いに理解できなかったらわかるまで説明しあったりすることで段々と耳も慣れてきて、話し方の癖や特徴なども楽しみながら話すことができるようになりました。ディスカッションやプレゼンテーションは日本語でさえ私には苦手意識があったのでどうになってしまうのか恐ろしかったですが、出来はあまりよくなかったかもしれないけれど自分では楽しめたし、意見は言えたと思うのでよかったです。正規授業では私が興味を持っている分野の講義を英語で聞くという貴重な体験ができました。タンドムパートナーともほぼ毎週会って、お互いの趣味、歴史やニュースについて話したので語彙の幅が研修前より広がったと思います。

時間のある時は街に遊びに行きました。Hull には大きなショッピングセンターや博物館、水族館があったので楽しめました。休日には少し遠くの York に行ったり、London も観光しました。できました。クラスメートがホームパーティーを開いてくれたことも思い出に残っています。教室の外で英語を使う場が圧倒的に増えたので、日常会話の力も身につきました。



一番大きかったのは授業に対する積極的な姿勢です。留学に向けてお茶大でもディスカッション形式の授業を後期に履修していましたが、なかなか意見を言い出せず、悔しい思いをしていたことを覚えています。それが Hull へ留学して、積極的な姿勢が身につきました。当てられることも初めはかなり緊張していたのですが、文法的な間違いなどを恐れず、逆に使うことで身につけよう、という姿勢で発言をしてうちに少しずつ慣れていきました。

今回の研修で、例えば文化や宗教が違おうと、努力すれば理解しあい、仲良くなることができるということを強く感じました。分かり合おうとすれば英語がめっちゃくちゃであろうとコミュニケーションは取れました。そういう意味で、英語を使うということに対しての考え方も少し変化したように感じます。

Hull での 6 週間は本当にあっという間で、帰国が楽しみだけどまだ帰りたくない最後の 1 週間は駄々をこねるほど素敵な経験でした。時々困ったことも起きましたが、そのたびに周りの人に支えられて乗り越えることができました。ぜひ、他の人にもこのすばらしい経験を味わってほしいと思います。

研修に参加した動機

私が今回この研修に参加した動機は、元々留学に興味を持っており、海外で生の英語に触れ、勉強をしてみたいと思っていたからです。また、留学先をハル大学と希望した理由としては、イギリスの歴史や文化に関心があり、正規授業を聴講できるプログラム内容であったためです。

研修プログラムについて

大学の授業についてですが、私のクラスは14人で編成されており、サウジアラビア人、タイ人、中国人、イラク人、そして日本人という編成でした。クラスメートは皆温かい人たちばかりで、とても良い雰囲気でした。私が一番驚いたことは、どの授業でもディスカッションの時間が多く設けられているということです。スピーキングの授業だけでなく、ライティングの授業でも、エッセーを書くために仲間同士で意見を交換しました。ディスカッションに慣れていなかった私は、初めは戸惑い、英語で上手く考えを伝えられずもどかしい思いをしていました。しかし、研修が進むにつれ少しずつではありましたが、自分の言いたいことを伝えられるようになりました。ディスカッションでペアや同じグループになった人は誰でも真摯に耳を傾けてくれ、とても嬉しかったです。ディスカッションや日常会話を通して、異なる背景を持つ人々と意見を交換し合うことがとても楽しく、同時に自分の視野を広げてくれるものだということに気がきました。また、他の留学生は授業中積極的に発言をしていて、見習わなければならない点だと感じました。

滞在先での経験

今まで、海外へ旅行に行くことはありましたが、海外で“生活する”ということは初めての経験でした。寮での生活であったため、朝食以外の食事や洗濯といった身の回りのことは自分でしなければなりません。慣れない場所での生活は、どのようにやりくりしていけばよいのかわからず、苦勞することもありましたが、共に研修に参加したお茶大生にアドバイスをもらったり、現地の学生にノウハウを教えてもらいながら、日々を過ごしていきました。また、何度かホームパーティーに呼んでいただき、手作りの料理を振る舞ってもらいました。多くの人とお話ししながら過ごした時間は忘れられない思い出となりました。

最後に

私がこの研修で強く感じたことは、恥ずかしくても少し勇気を出して言いたいことを伝える努力をすることがいかに大切か、ということです。私は、研修前半はクラスでもなかなか発言できずにいましたが、このままではもったいないと思い、伝えたいことを声に出し、クラスメートと話していくうちに楽しいと感じるようになりました。また、今までは日本国内で外国の方を見かけても、何も声をかけられずにいました。しかし、今回の研修を通して、外国の方に話しかける抵抗が少なくなったように感じます。駅構内などで困っている方などの力になればいいなと思います。そのための、これからは特にスピーキングに力を入れていきたいと思っています。本研修を手配してくださったグローバル教育センターの先生方や旅行会社の方に感謝いたします。また、この6週間、共に研修に参加したお茶大生に支えられ、現地で出会った方々に助けられ、とても充実した毎日を過ごすことができました。ありがとうございました。



ハル大学スカボローキャンパスでの短期留学を終えて

理学部情報科学科4年 1120518

酒井えりか

学習成果についてですが、私は6週間のイギリス生活を通して特にリスニング力がついたと感じています。最初は先生や現地の学生達が何を言っているのかさっぱりわからず困惑しましたが、イギリス英語の発音にも慣れ、帰る頃には何を言っているのかだいたいわかるようになりました。普段日本で生活しているとほとんど英語に触れないので、留学で英語と沢山触れ合い、いい経験ができたと感じています。また6週間という期間は長過ぎず短過ぎずちょうどいい期間でした。

私は留学前英語があまり好きではなく苦手意識もありました。そのため将来英語を使う機会の多い仕事に就くことを後ろ向きに考えていましたが、留学を通して英語が好きになったので英語の使う機会の多い仕事に就きたいと思える程英語が好きになりました。

初めて6週間という長い期間海外に滞在しましたが、文化の違いに驚きました。日本では受け身の講義が多いのに対し、イギリスではディスカッションのように生徒が積極的に授業に参加して見習うべき点だなと思いました。



写真は私が滞在したスカボローにあるスカボロー城からの眺めです。スカボローは治安が良く自然も豊かでとてもいい町でした。スカボローの方々はとにかく優しく大学の先生はいつも留学生である私達を気にかけて下さいました。イギリスへの6週間の短期留学は本当に楽しくてとてもためになる6週間でした。



モナシュ大学
(オーストラリア)



モナシュ大学短期研修を通して

生活科学部人間生活学科生活社会科学講座2年

石川 文絵

2月15日から3月23日までの5週間の春季オーストラリア短期研修は密度の濃い、非常に有意義なものでした。新しい世界で様々な価値観に触れたことで、広い視野を得ることができました。

事前学習や授業で学び、日常生活で体験したオーストラリアの多文化社会。学校でも、スーパーでも、観光地でもあるいは家庭でも様々な国籍や宗教を持つ人がおり、多言語が飛び交っていました。一国の中に様々な文化が存在することは、モノカルチャーな日本で育った私にとっては当初非常に羨ましく思えました。そんな環境の中で育ち過ごしたならば、他者の持つ違いへの寛容度は増すように思い、それが人々の心のゆとりに繋がるように思えたからです。

しかしながらオーストラリアで学び、生活する中で **multiculturalism** の長所と共に短所も徐々に見えてくるようになりました。ある文化の存続はその文化を継承する人数に依存してしまうため、少数文化が淘汰する恐れをはらんでいたり、多文化社会は文化や宗教間での優劣をめぐる争いが勃発する危険性も併せ持っていたりします。

また、多文化社会と自らのアイデンティティーは切っても切れない関係にあることを知りました。これからグローバル化がますます加速していくだろう世界において、自らのアイデンティティーをどこに置くか、そして異なるバックグラウンドを持つ他者の違いをどれだけ理解し歩み寄ろうとするかが、これからの世界構築のあり方に大きな影響をもたらす重要な要素になり得るだろうと考えました。グローバル化や、多文化社会を一辺倒に捉えるのではなく、その強みと不都合さを議論し、近い将来の移民が増加しているだろう日本における多文化社会がもたらす具体的な効果まで推し量る必要を感じました。

たくさんのおよび出会いに恵まれ、非常に実り多い留学となりました。この5週間を通してめいっぱい様々な体験をし、刺激を受け、これからも大切にしていきたい仲間とかけがえのない思い出、そして今後の目標という何にも替え難いお土産と共に日本に帰ってくることができました。自分の英語力の欠落に落胆しながらも、拙い英語ではあってもそれをツールにして友達が増える喜びを感じ、国境を越え、宗教を越えてゆく英語の持つ国際性とその力を、身をもって体感しました。



最後になりますが、この研修に関わりサポートしてくださったすべての方々に心から感謝いたします。このような素晴らしい機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

モナシュ大学研修を通して学んだこと

文教育学部 言語文化学科 英文コース 2年

1310216 戒田智美

このモナシュ大学研修の良さは、日本の他大学との交流ができることであると思う。私は、今回のプログラムでDクラスになり、名古屋大学、大阪大学、一橋大学、九州大学、埼玉大学のクラスメートと互いに協力しあい、刺激を受けながら英語を勉強することができた。昼休みにクラス17人全員で円になってごはんを食べたり放課後にクラス単位で海へ出かけたり、日本各地の大学生とオーストラリアでの経験を共に共有できた。お茶大にはない学部の人や大学院生の方と交流できたことはとても貴重な体験だった。

英語力の上達に関して言えば、5週間ということもあり、飛躍的に向上したわけではなかったが、ホームステイや授業を通してリスニング力が上がったように感じる。また、5週間、海外で暮らしたことで自信がつき、次の長期留学へのモチベーションに繋がった。何より、毎日本当に楽しく、勉強面だけでなく観光などの遊びの面でも充実していた。午前中は大学で勉強し、放課後は自分の好きなことに時間を割くことができた。放課後の過ごし方は人それぞれであったが、私は、モナシュ大学のサークル活動に参加させてもらってバーベキューをしたり、現地の友達と一緒に買い物をしに出かけたりと色々なことに挑戦した。現地の友達を作る機会や英語に慣れ親しむチャンスは、自分次第でいくらかでも増やせると感じた。

また、お茶の水女子大学特別プログラムでは、少人数での授業により、オーストラリアの職場について深く知ることができた。1週間という短い期間のプログラムではあったが、海外で働くためのレジュメの書き方など、充実した内容でとても勉強になった。お茶大内での仲も深まり、他大学と勉強を始める前にこの特別プログラムに参加してよかったと感じる。今回できた、この縦横の繋がりは今後も大事にしていきたい。

Class Group Photos



My stay in Australia

文教育学部言語文化学科 1 年栗原彩夏(1310225)

I went to Melbourne in Australia as a studying abroad. This chance was the first time to study abroad for me, so I felt nervous at first. But we prepared a lot with my friends and teacher. These preparation made me relieved.

My purpose of this program was to improve my English skill, especially, speaking skill. But I learned a lot of other things.

My most beautiful memories in Australia are every dinner with my host family. My host family members were host mother and grandmother. They were so kind to me. And every evening, I enjoyed talking to them very much. They were from Germany. So my host grandmother could speak only in German, and my host mother could speak both in English and German. I am interested in languages, so I wanted to learn not only English but also German. My host grandmother talked to me in German and my host mother translated for me. I enjoyed talking in two languages. I learned some German words, so I was trilingual! I was satisfied with that situation. As I learn new words, my host mother praised me saying “you are smart cookie”. Smart cookie means very smart. I loved these words like a slang. My host mother taught me a lot of slangs. By using textbooks, I cannot learn real English. Through communication with people who live in society using English, I got a lot of real way to speak.

During my stay, I experienced a lot of new feelings. I think that my decision to join this program was the best choice. I feel great gratitude to my teacher who recommended to join this program, and all people who were concerned with me especially my host family.



オーストラリア・モナシュ大学

生活科学部 人間生活学科 生活社会科学講座 3年 平田 由紀

私がモナシュ大学研修を希望した大きな理由は、行ったことがない国であること、そしてホームステイができることでした。1年生の終わりにお茶大の短期派遣プログラムでイギリス・ハル大学に行き、これが私にとっての初めての海外生活でした。帰国後、また他の国に行ってみたい、前回とはなるべく異なる環境に自分を置いてみたいということでこのプログラムを希望しました。

私がお世話になった家族は、お父さん・お母さん・小学生の息子さんという3人家族でした。ホストマザーは中国出身で、オーストラリアのことだけでなく中国についても話を聞くことができました。自身が中国とオーストラリアの違いを知り、受け入れながら暮らしてきた経験からか、いつも”Interesting. Isn't it?”と楽しそうに物事や考え方の違いを話してくれたことが印象に残っています。ホームステイの受け入れにはとても慣れていて、よく以前ステイしていた人たちについても話を聞かせてくれました。日本を訪れたことはないそうですがテレビ番組などを通して日本のことを見聞きしていて、「こう聞いたんだけど本当？どうして？」などいろいろと質問してくれたので、日本について見つめ直す機会にもなりました。

次に、授業では **Environment** や **Culture** など毎週の目標が定まっていたので、集中して取り組むことができました。授業の時間が限られていたので慌ただしく感じることもありましたが、時間のない中で何に重点を置いて取り組めばよいのかという点を学ぶ機会になりました。エッセイやプレゼンテーション、ディベートの方法や構成については丁寧な指導がありました。日本でもディベートの経験は少なかったのですが、他の大学の学生とチームを組んで取り組み、最終的には自信を持って行うことができました。また、各自テーマを選ぶ過程で、オーストラリアや世界をとりまく問題について知ることができました。

最後に、キャンパス内や市内中心部では、各国語の看板や各国料理のレストランが並ぶ風景、また人々の外見などから、多文化の国であると実感しました。また、プログラム内のフィールドトリップや個人的な旅行で、雄大な自然やオーストラリアならではの動物を見ることもできました。



Monash College 2014 [PPA Program & Consortium Program]

1230112 Yumi Sato

Sophomore of Food and Nutrition, Human Life and Environmental Science

This was my first experience to study abroad. I was very looking forward to studying in Australia, but I also felt very nervous. Contrary to my concern, however, I enjoyed the program and this stay became my best memory.

For the first week, I attended the PPA program. We learned practical techniques to work in Australia. This program was substantial and a little hard to keep up with. But this program was very interesting and beneficial. I learned how to write email and knew what my strength and opportunity were. This program was only for Ochanomizu University students. We had been good friends in Japan already but our friendship was promoted through this program. From second week to fifth week, I went to the Clayton Campus where the Consortium Program was held. In this program, I learned not only English but also Australian culture. Attending students came from 6 different universities in Japan so I was a little nervous at first but also enjoyed to make new friends. Classmates were all kind to me so we could build a good friendship. We are keeping getting in touch with each other and planning to get together again in Japan. My host mother was a really kind woman. She made delicious meals for me and gave me enough amount of food. She listened me carefully and guessed what I wanted to say. She talked to me slowly and clearly so I could understand her easily. During my staying, a new Chinese girl came to our home. I tried to talk to her and we became friends. On weekends, I went to various sights with my friends. I tried to go as many places as possible. This was very exciting for me.

At first, I decided to go to Monash College just in order to improve my English skill. Even so, I learned communication skill rather than English skill through these programs. I tried to be understood by my host mother and now she is like my real mother. I attempted to make a lot of new friends and now I have quite a few friends in Japan and Australia. I had a truly good time with them. I want to go to Melbourne again.



参考資料

★ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)

研修期間:2014年2月15日~3月29日(計6週間)

研修内容:1. 週20時間アカデミックイングリッシュ
2. フルタイムインターンシップ

滞在形式:ホームステイ

研修費用:約64万円



★オタゴ大学(ニュージーランド)

研修期間:2014年2月15日~3月31日(計6週間)

研修内容:1. 週22.5時間英語研修
2. 学部正規授業聴講
3. 週2時間インターンシップ

滞在形式:ホームステイ

研修費用:約55万円



★ヴァッサー大学(アメリカ)

研修期間:2014年2月17日~2月24日(計8日間)

研修内容:国際学生フォーラム

「3.11を越えて:グローバル社会のための対話と協働」

滞在形式:大学宿舎



★ハル大学(イギリス)

研修期間:2014年2月15日~3月31日(計6週間)

研修内容: 1. 週20時間英語研修

2. 学部正規授業聴講

3. ハル大学学生との学習交流会

4. 現地小学校訪問、日本語・日本文化の紹介

滞在形式:大学寮

研修費用:約55万円



★モナシュ大学(オーストラリア)

研修期間:2014年2月15日~3月23日(計5週間)

研修内容: 1. 週25時間オーストラリア地域研究

2. 地域研究に特化した正規授業の聴講

3. モナシュ大学学生との学習交流会

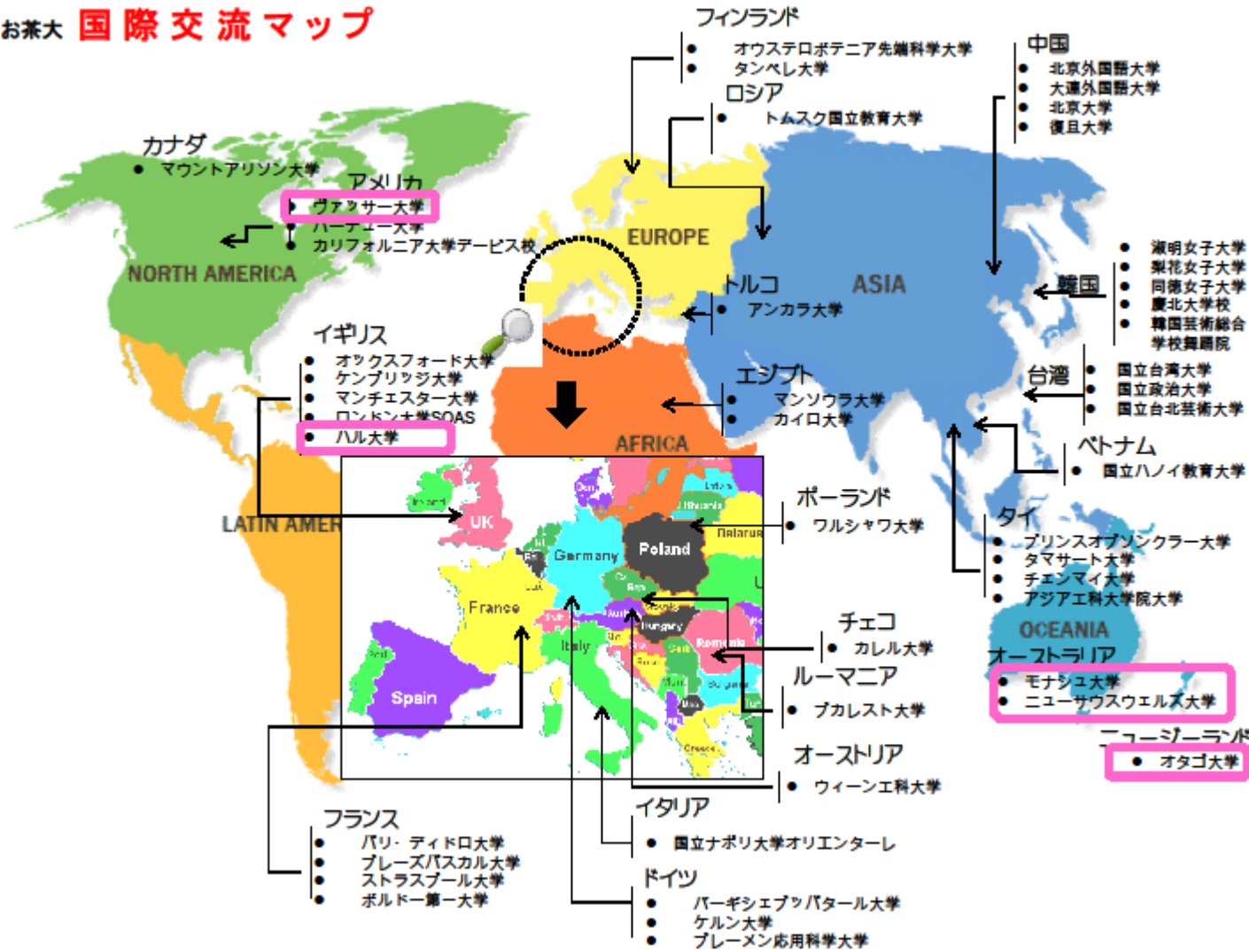
4. 現地小・中・高校訪問

滞在形式:ホームステイ

研修費用:約50万円



お茶大 国際交流マップ




今回の研修先は
左記の5校です。

2013 年度春季海外短期研修報告書
発行:2014 年 10 月 31 日
お茶の水女子大学グローバル教育センター
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL03-5978-5913